

## 医療・介護班の研究会開催

2003年2月28日に都内赤坂の医療科学研究所で開催された世代間利害調整プロジェクト「医療・介護班」の研究会では、4時間余りにわたり活発な論議が交わされました。研究テーマも医療と介護について理論と実証の両面から多岐にわたりました。当日の報告者は田中耕太郎（山口県立大）、知野哲朗（岡山大）、尾形裕也（九州大）、南部鶴彦（学習院大）、田近栄治（一橋大）、小椋正立（法政大）の各教授、鈴木亘氏（日経センター）、増原宏明氏（一橋大）でした。今回の研究会には佐藤主光（一橋大）や中山徳良（流通科学大）の各助教授も加わり、すこぶる盛会でした。



小川浩助教授



小椋正立教授



医療・介護班の研究会の様様



藤沼宏一教授



鈴木興太郎教授

## 世代間衡平性と負担原則

「地球温暖化問題を巡る世代間衡平性と負担原則」を巡る国際シンポジウムが2003年3月8日・9日、東京神田の学術総合センターで開催されました。鈴木興太郎教授の基調講演で幕を開けた本シンポジウムの報告者はK aushik Basu教授（コーネル大学）、Y ongsheng Xu教授（ジョージア州立大学）、後藤玲子博士（国立社会保障・人口問題研究所）、篠塚友一教授（小樽商科大学）、須賀晃一教授（早稲田大学）、藤沼宏一教授（一橋大学）、原千秋助教授（ケンブリッジ大学・一橋大学）、森村進教授（一橋大学）、吉原直毅助教授（一橋大学）、の9人でした。報告者が用いたアプローチは社会選択理論から経済倫理学さらには法哲学にまで及び、その報告内容は衡平性の公理を満たす社会厚生関数の探求から、将来世代に対する義務の性質を問うものまで多岐にわたりました。それぞれの報告において参加者が各自の専門性に基づき白熱した議論を展開しました。また川又邦雄教授（慶應義塾大学）や岸本哲也教授（神戸大学）をはじめとするゲスト参加者の方々から報告内容および本プロジェクトに対する貴重なコメントを数多く頂戴しました。様々な分野の専門家による幅広い議論を通じて世代間衡平性問題に深く切り込んだ今回の国際シンポジウムは大変有意義なものでした。

## 研究成果の単行本化

2003年3月に丸善から当該プロジェクトの研究成果が単行本として出版されました。本のタイトルは *Taste of Pie: Searching for Better Pension Provisions in Developed Countries* です。編者は高山憲之教授。全体で454頁の大冊本です。その概要と目次は本ニュースレターの裏面のとおりです。

## 第2回全体集会

2003年4月1日、東京国立の一橋大学佐野書院で当該プロジェクトの第2回全体集会が開催されました。報告者は小川浩助東学園大学助教授、小椋正立法政大学教授、小塩隆士東京学芸大学助教授、二神孝一大阪大学教授、田辺国昭東京大学教授の5人でした。それぞれの詳細な報告を受け、長時間にわたる中身の濃い質疑応答の中で世代間利害調整問題の理解をいっそう深めることができました。



小塩隆士助教授



二神孝一教授



田辺国昭教授

## 日米企業年金シンポジウム

2003年4月15日、東京神田の一橋記念講堂で日米企業年金シンポジウムが開催されました。当該プロジェクトおよびアジア財団・ドイツ-日本研究所の共催による会議です。当日はCaPERS 前会長 W illiam D .C rist 博士がアメリカの企業年金について基調講演を行った後、矢野朝水氏（厚生年金基金連合会専務理事）が日本の企業年金について、また Franck S. W iebe 氏（アジア財団）がコーポレートガバナンスについてそれぞれ報告しました。その後、主として年金基金とコーポレートガバナンスとの関係をめぐり徹底した討論が行われました。



研究成果の出版



W D .C ristカルパース前会長